

寺田縄界隈の野鳥 (2)

(平成24年10月)

この時期、田畑や川辺でよく見かける白鷺を中心とした大型の水鳥を紹介いたします。

平塚周辺には昔から白鷺が多く生息しています。平塚市総合公園や平塚共済病院の敷地内に「白鷺の塚」という石碑が残されています。営巣地(コロニー)は、鈴川と金目川の合流点の笹敷にもあるようです。

白鷺の仲間には、大鷺、中鷺、小鷺がいます。中鷺は最近急激に姿を消しており、なかなか姿を目にすることはできません。



コサギ (小鷺)

名前の通り、白鷺の仲間では一番小さな形をしています。特徴は、くちばしと脚が写真のように黒色です。

流れ落ちる水の中に魚を待っているのでしょうか。静かにたたずんでいます。



ダイサギ (大鷺)

コサギと比べると大きな姿をしています。くちばしの色が季節に応じて変わります。

秋、冬：黄色。 春、夏：黒色

稲刈りのコンバインの後に付いたり、刈入れた田に舞い降り、カエルやコオロギなどを食べに来ます。

アオサギ (蒼鷺)

素敵なポーズ。羽を乾かしています。

鷺の仲間では一番大きく、寺田縄周辺では10年ほど前から急に増え、今では普通に見られます。

下水の普及などで水質が向上し、餌となる魚が増えたことによると思われます。





ホシゴイ (星五位)

ゴイサギの幼鳥で、親鳥は下の写真の姿をしています。羽毛は全く異なり親子関係にあるとは思えません。

鈴川や水田の用水掘りで見かけます。



ゴイサギ (五位鷺)

昼はスギ、マツなどの林に群れをなして眠り、夜になると水田などで魚、カエル、カニなどを捕えて食べます。飛びながらカラスに似た声で鳴きます。

名前の「五位」とは、後醍醐天皇が家来に、池にいたこの鳥を捕まえるように命じたところ、素直に捕まり、命令に神妙であるとして「五位」の位を与えたと云われています。

カワウ (川 鵜)

ウミウよりやや小形で、体色はいっそう濃い。樹上に集団で営巣し、「鵜の森」と呼ばれます。潜水の名手で、魚を鵜呑みにします。

立掘り親水公園近くの渋田川に架かる水道橋にたくさん並んで羽を乾かしています。

